

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦舞
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきしゃだんほうじんにほんぶようきょうかい		
	制作団体名	公益社団法人日本舞踊協会		
	代表者職・氏名	会長 近藤誠一		団体ウェブサイトURL
				http://www.nihonbuyou.or.jp/
	制作団体所在地	〒 104-0054	最寄駅(バス停)	都営大江戸線勝どき駅
		東京都中央区勝どき4-6-2-410		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	昭和30年(1955年)12月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		会長 近藤誠一/副会長 織田紘二 古井戸秀夫/ 常任理事 吾妻徳徳 井上八千代 西川扇藏 花柳基 松本幸四郎 / 理事 市山松扇 尾上菊之丞 猿若清三郎 中村梅彌 花ノ本寿 花柳寿楽 藤間恵都子 水木佑歌 山村友五郎 若柳壽延/ 監事 泉翔蓉 中原徹/名誉顧問 國分正明 尾上墨雪 猿若清方 橘芳慧 花柳寿美 坂東勝友 藤間藤太郎 松本白鸚 若柳宗樹	構成員/満15歳以上の日本舞踊家で、協会所属流派の名取であること。 加入条件/この法人の目的及び事業に賛同し、正会員2名の推薦を得ること。 会員数/3,300名 支部/26支部	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	城後一朗・山本真純
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	柳原幸子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		info@nihonbuyou.or.jp		0335336455

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	昭和24年2月、任意団体として日本舞踊協会設立。昭和30年12月、文部大臣から認可を受け、社団法人日本舞踊協会を設立。設立当初の会員数は2,488名で、それまで流派単位での活動が主だった日本舞踊界において、流派を超えて日本舞踊の普及発展に取り組む初めての公的組織として誕生した。以来70年、日本舞踊の魅力発信を図る公演事業を中心に、人材育成を目的としたコンクール公演、学校や地域で行うワークショップ、海外公演、映像作品の配信など、日本舞踊を通じて日本の文化の発展に寄与するためさまざまな活動を展開、実績と積み重ねてきた。平成24年4月には公益社団法人の認定を受け、さらに公益性の高い活動を行っている。現在では、会員数3,300名、傘下の支部・ブロックが全国31の都道府県に設置されており、全国的な組織として活動している。	
	学校等における公演実績	昭和63年より当該事業に参加。 東京都主催「キッズ伝統芸能体験」に協力団体として平成20年度より参加。 東久留米総合高校定時制課程でのワークショップ(平成20～23年)、そのほか(公社)日本芸能実演家団体協議会主催の子供向けワークショップに多数参加協力。 平成27年度からは、アーツカウンシル東京主催、東京都助成・協力の都内の小中高校にて子供向けプログラム「子供のための伝統文化・芸能体験事業」(実演とワークショップ)を、平成28年度からは、新宿区教育委員会主催の体験プログラム「伝統文化理解教育事業」にて小学生を対象とした日本舞踊のワークショップを実施中。 また当協会の全国各支部・ブロックでも多数の子供向けワークショップを実施している。	
	特別支援学校等における公演実績	鹿児島県立串木野養護学校(平成19年度本物の舞台芸術体験事業) 香川県立豊学校(平成23年度次代を担う子どもの文化芸術体験事業) 町田市立つくし野中学校特別支援級(平成28年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ) 東京都立八王子東特別支援学校・東京都立葛飾ろう学校(アーツカウンシル東京主催、平成28年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」) 岡山県立岡山支援学校(平成30年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演) 北九州市立小倉北特別支援学校(令和3年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演) 東京都立町田の丘学園(アーツカウンシル東京・芸団協主催、令和3年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」) 東京都立葛飾ろう学校(アーツカウンシル東京・芸団協主催、令和6年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」)	

  

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="http://nihonbuyou.or.jp/pages/school">http://nihonbuyou.or.jp/pages/school</a> <a href="https://youtu.be/QFmHS1Zu-j0">https://youtu.be/QFmHS1Zu-j0</a> <a href="https://youtu.be/9yzLSabGH8Q">https://youtu.be/9yzLSabGH8Q</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会 】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

「ひらけ!日本舞踊のとびら!」

企画のねらい

日本舞踊は400年間、時代を超えて多くの人を魅了し続ける日本固有の伝統芸能です。着物を着て舞い踊る所作や立ち居振る舞いの美しさ、多彩な物語や世界を描く独自の舞踊表現、日本の音の繊細な響きにのせて繰り広げられる振りに大きな特徴があります。鑑賞芸術としての価値に加え、お稽古事としても広く親しまれ、美しく磨き上げられてきた日本人ならではの所作の習得など日々の暮らしの中で生きる芸能としても伝承されてきました。

プログラムでは、その日本舞踊ならではの表現にあふれる演目の鑑賞と、伝統的な楽器の生演奏に合わせて実際に踊る体験を通じて、子供たちが伝統芸能の奥深さに触れることで、表現の豊かさを学び、感受性を高めることを目指します。

公演のタイトルを「ひらけ!日本舞踊のとびら」と題し、基本・みる・知る・踊る・発表という流れでプログラムを構成し、子供たちが効果的に日本舞踊への理解を深めることができるよう工夫をしています。

またワークショップや本公演の体験コーナーを中心に、間近な距離で日本舞踊家と子供たちが指導や対話を行うことができる本事業の特性を最大限に活かし、芸の伝承に生きる人間との交流を通して子供たちが多様な世界に触れる機会を創出します。

本公演内では、日本舞踊の舞台を彩る邦楽演奏家や衣裳、かつら、化粧、小道具、照明、音響などのスタッフの仕事も紹介し、総合舞台芸術としてそれぞれの専門家の役割やその仕事の奥深さ、協調・協働して舞台を作り上げることの大切さも学びます。

演目概要・演目選択理由

《鑑賞演目》

●「みる部屋」

○長唄「藤娘」(初演:1826年)

日本舞踊の代表的な作品のひとつで、華やかかつ艶やかな見た目や繊細な心情表現・情感あふれる踊りが魅力の演目。日本舞踊を観たことがない子供たちに目にも記憶にも残る演目を選択しました。

映画「国宝」でも取りあげられており、江戸時代から今に至るまで長く愛される人気の作品です。

○長唄「浦島」(初演:1828年)

幅広い年代に知られる浦島伝説が題材の演目。二枚扇を巧みに扱うなど高度な舞踊技術の魅力に加え、舞台上で一瞬にして老人へと扮装を変化させる「ぶっかえり」という初演時より形を変えずに受け継がれている伝統的な演出形式を含み、子供たちが理解しやすく、見るにも新鮮な舞台を届けられると考え選択しました。

○長唄「四季のうつろい 一百千鳥、紅葉笠より」(初演:2024年) ※共演・発表場面あり

子供向け事業で上演するために創作したオリジナル作品。日本の四季折々の風物や行事を踊りで表現。「藤娘」「浦島」では、白塗りのお化粧に役柄を表す華やかな衣裳を着用する【衣裳付け】の形式で上演を行う一方、本作品では、【素踊り】という特定の役柄の扮装や衣裳・大道具など装飾を排し、身体表現のみで作品の世界を描写する形式で上演。観る側の想像力、演じる側の表現力により成立する作品。また本公演の最後には、ワークショップに参加した児童・生徒の成果発表の場を設定。観る・聴く・踊る・発表する・共に舞台を創る体験をして、日本舞踊の幅広い魅力を発見してもらい、伝統芸能への理解・興味関心を深める意図で選択しました。

《体験・レクチャー》

●「基本の部屋」

人から人へと伝承されてきた日本舞踊において、他者への礼儀は非常に大切な要素です。日本舞踊、ひいては伝統芸能を知る上でまずは綺麗な型を通した挨拶を学ぶことで、相手への思いやりや敬意を表す精神がその“型”に通じることが学びます。着物や畳での生活や日本文化の特徴を汲んだ特有の所作や美しい型を知ることで、他者を尊重し、思いやる気持ちを込めて表現することの大切さを体感し、実際に体験します。

●「知る部屋」

日本舞踊が総合舞台芸術であるという側面について、それを支える職業(狂言方、大道具、照明、音響)についてもバックヤード見学のように学習します。また踊りに不可欠である伴奏音楽について日本の伝統楽器の生演奏の鑑賞、楽器紹介を通して日本舞踊と伴奏音楽との関わりを実演を交えて学習します。日本音楽の特徴を捉え、より理解を深めることで音楽教育における日本の伝統音楽・楽器への興味関心を高めることを目指します。

●「おどる部屋」

先に学習した日本舞踊の要素を踏まえ、実際に日本舞踊を踊る体験。日本舞踊のしなやかで美しい所作を体験し、その独特な身体の使い方、また型を学びます。

※公演の最後にワークショップに参加した児童・生徒たちの成果発表を行います※

児童・生徒の参加または体験の形態

各場面ごとに鑑賞と体験の両方を組み込み、プロの実演家から間近な距離で指導を行うほか、共演をしたり、作品を創り上げる楽しさを体感してもらいます。プログラムでは、「基本の部屋」「知る部屋」「おどる部屋」「みる部屋」のとびら(コーナー)を設け、そのうち「基本の部屋」では日本舞踊の基本となる綺麗な挨拶の仕方や基本姿勢を、「おどる部屋」では生演奏で日本舞踊を踊る体験を全員参加型で実施。また、鑑賞演目「四季のうつろい 一百千鳥、紅葉笠より」では、曲中の一部分をワークショップで事前に体験した児童・生徒が生演奏に合わせてその成果を発表する場を設けます。

本公演・ワークショップの内容

児童・生徒の 参加可能人数	本公演			参加・体験人数目安	～500名（※体育館の大きさにより変動）		
				鑑賞人数目安	～500名		
本公演演目  原作/作曲 脚本 演出/振付	「ひらけ！日本舞踊のとびら！」 プログラム構成・演出・振付・脚本：（公社）日本舞踊協会学校公演委員会 鑑賞演目：長唄「藤娘」／長唄「浦島」／長唄「四季のうつろい 一百千鳥、紅葉笠よりー」  ○ 長唄「藤娘」（担当：中村梅彌） ●「基本の部屋」 ○「踊る部屋」 ●「みる部屋」 長唄「浦島」（担当：猿若清三郎） ○「知る部屋」 ●「四季のうつろい 一百千鳥、紅葉笠よりー」（担当：猿若清三郎） プログラムの他に日本舞踊覚書という資料を活用し、日本舞踊をより深く理解する助けとします。						
	公演時間	90	分				
出演者	日本舞踊家／長唄「浦島」若柳吉應、長唄「藤娘」花柳基紫瑞ほか 演奏家／長唄：杵屋五吉郎社中、鳴物：藤舎千穂連中						
演目の芸術上の中核 となる者（メインキャス ト、メインスタッフ、指 揮者、芸術監督等）の 個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	【当協会学校公演委員会メンバー】 当協会役員（本プログラム監修）：中村梅彌・猿若清三郎・花ノ本寿・藤間恵都子 担当委員（舞台監督・舞台監督助手）：泉秀彩霞・西川扇衛仁・若柳吉優亮 ＊重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者を中心とする当協会役員が監修のもと、長年、本事業に携わる委員が プログラムを担当。 ＊日本舞踊家（花柳基紫瑞・若柳吉應ほか）は、文化庁と当協会共催事業のコンクール公演「各流派合同新春舞踊大 会」で文部科学大臣賞および各賞を受賞するなど、新進気鋭の若手、実力のある中堅が出演。 邦楽演奏家（杵屋五吉郎社中・藤舎千穂社中ほか）は、歌舞伎興行や演奏会、当協会主催舞踊公演、国立劇場主催 公演等に携わる第一線で活躍中のメンバーが担当。						
本公演 従事予定者数 （1公演あたり） ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者：	16	名	運搬	積載量：	3～4	t
	スタッフ：	21	名		車 長：	10	m
	合 計：	37	名		台 数：	2	台

<div> <div> 本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安 </div> </div>	<div> 前日仕込 </div>		<div> 無 </div>		<div> 前日仕込所要時間 </div>		<div> 時間程度 </div>		
	<div> 到着 </div>		<div> 仕込 </div>		<div> 上演 </div>		<div> 内休憩 </div>		
	<div> 8時頃 </div>		<div> 8時頃～11時頃 </div>		<div> 13時半頃～15時頃 </div>		<div> 10分程度 </div>		
	<div> 1時間半程度 </div>		<div> ～17時頃 </div>						
	<div> ※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。 </div>								
<div> <div> 本公演 実施可能日数 目安 </div> <div> ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。 </div> </div>	<div> 6月 </div>		<div> 7月 </div>		<div> 8月 </div>		<div> 9月 </div>		
	<div> 10月 </div>		<div> 11月 </div>		<div> 12月 </div>		<div> 1月 </div>		
			<div> 18日 </div>						
	<div> ※平日の実施可能日数目安をご記載ください。 </div>				<div> 計 </div>		<div> 18日 </div>		
<div> 公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真) </div>	<div>  </div>								
<div> 著作権、上演権等 の許諾状況 </div>	<div> 各種上演権、使用权等の許諾手続の要 否 </div>			<div> 該当あり </div>		<div> 該当コンテンツ名 </div>		<div> 百千鳥・紅葉笠 </div>	
	<div> 該当事項がある 場合 </div>		<div> 権利者名 </div>		<div> 公益社団法人日本舞踊協会 </div>		<div> 許諾確認状況 </div>		<div> 内部保有 </div>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

なし

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

ワークショップの  
ねらい

本ワークショップは、児童・生徒にとって日本舞踊との初めての出会いとなる場であり、伝統芸能を身近に感じ、文化・芸術への関心を喚起することを目的としています。

近年、SNS等を通じて世界中のダンスに触れる機会は増えていますが、本格的な日本舞踊を間近で鑑賞・体験できる機会は極めて限られています。そこで本事業では、日本舞踊の特色を身体いっばいに感じられるプログラムを実施します。参加者には稽古着として浴衣を着用してもらい、着物と一体となった所作の美しさや、日本舞踊に固有の「型」を体感してもらいます。

鑑賞演目「四季のうつろい―百千鳥、紅葉笠より―」の一部を題材に、児童・生徒がお扇子を持って稽古を行います。本公演では演奏家による生演奏のもと、日本舞踊家と共に舞台に立ち、成果発表の機会とします。この経験を通じて、子供たちが「踊る楽しさ」や「発表による達成感」を味わい、表現することの面白さや奥深さを学べるよう工夫します。後半ではチームに分かれて稽古を行い、きめ細かな指導や対話を通じて、より深い学びへの意欲を高めます。

体験後の感想共有や質疑応答では、児童・生徒の視点に寄り添い、日本舞踊や舞踊家、さらに日本の伝統文化への関心と理解を引き出すことを意識しています。講師は子ども向け事業に経験豊富で定評のある中堅の日本舞踊家を中心に、地域で活動する協会の舞踊家にも協力を仰ぎ、地域に根差した形で日本舞踊や伝統芸能への理解を深めてもらうことを目指しています。

児童・生徒の  
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

人数…学年単位の実施を想定  
(～80名程度／最大200名程度)  
※浴衣着用可能人数…最大40名

ワー  
ク  
シ  
ョ  
ッ  
プ  
の  
内  
容ワークショップ  
実施形態及び内容

## 「よーい！日本舞踊」

## 1、始まりのご挨拶・お辞儀・基本姿勢

日常生活にも活かすことができる日本舞踊において重要な礼儀、相手に敬意が伝わる挨拶のしかた、日本舞踊を踊る上での基本姿勢を体験。

## 2、日本舞踊の基礎

日本舞踊の“型”の基本がつまった踊りの体験。  
踊りで重要な身体の動かし方や拍子の取り方を曲に合わせて体験。

## 3、春の美しい情景を描写する踊り

日本舞踊の基礎を踏まえ、「春」の美しい情景をお扇子を使って表現。  
舞い散るさくらの花びらや、春の小川ののどかな風景など、自然を愛でる気持ちを踊ります。  
イメージを膨らませて「どのように踊るか」を児童・生徒各々が考え、表現する力、また踊りを見る想像力を養います。また同じ曲で日本舞踊家が実演をみせます。

## 4、「四季のうつろい―百千鳥、紅葉笠より―」

ワークショップの成果として本公演で発表する曲のお稽古。  
お扇子を持ち、拍子を活かしながら舞踊家と共に豊年踊りの一部を踊ります。

## 5、感想・質疑応答

日本舞踊を体験して疑問に思ったことを聞いたり、ワークショップで得た感想を発表するなど日本舞踊家と児童・生徒がコミュニケーションを取ります。日本舞踊への理解や興味関心を更に深める時間とします。

その他ワークショップに  
関する特記事項等

浴衣の着付けや指導のサポートで、各校の近隣在住の日本舞踊家(当協会の協会員)にもボランティアで協力いただくことを想定しています。  
ワークショップでは、代表の児童・生徒(最大60名ほど)に浴衣を着用して体験していただきます。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名      公益社団法人日本舞踊協会      】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。  
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。  
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。  
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。  
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上可(エレベーター必須)		主幹引き込み電源容量		100 A以上	
舞台設置面積	間口	指定なし	m	奥行	指定なし	m	
	高さ	指定なし	m				
舞台設置場所	フロア対応	条件が合えば可		学校のステージでの対応		可	
搬入間口の広さ	幅	1.5 m		高さ	1.8 m		
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否		不要		
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		なし		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		要		
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		15 m以内		
搬入車両の種類	大型トラック		台数	2 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2.5 m		車長	10 m		
備考	2F以上に体育館がある場合は、機材の搬出入の都合上、舞台のしつらえを簡略化して行わせていただく可能性があります。一部条件を満たしていない場合でも対応可能な場合がありますので、ご相談ください。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	体育館平面図、校舎平面図があればご提出願います。	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
ワークショップ						
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	本公演当日に15分程度	本番前の時間帯 (10時30分頃～13時30分頃)	本番前のリハーサルとして、日本舞踊家・演奏家立ち会いのもと15分程度のリハーサルを実施  ※本公演では、ワークショップで体験した2分程度の踊りを生演奏に合わせて発表する場面を設けることを想定しております。ワークショップの参加者の人数やご要望に応じて進めてまいります。	各校には、まずワークショップ参加者の発表場面の設定についてご希望をお伺いします(※全員参加or代表者が参加or実施自体を希望しない)  ※ご希望のある場合は、ワークショップ終了後、本公演までの間に復習用動画も提供予定。自主練習用として活用いただければ幸いです。	
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	会場となる体育館および楽屋として使用させていただく教室は当日の朝8時頃～17時前頃まで終日利用希望です。授業や行事、部活動等に支障のない日程をお知らせくださいますようお願いいたします。(※公演終了後、先に半面をあげる等、状況により対応ができる場合もありますが、搬出入時、仕込み時の安全確保の都合上、できる限り終日あけていただきますようご協力お願い申し上げます。)
	2	ワークショップは参加者のうち、最大60名程度の児童・生徒に浴衣を着用して体験していただきます。また、ワークショップ参加者には、ワークショップで体験した踊り(2分程度)を本公演で、生演奏で踊るという場面(発表場面)を設定することを想定しております。ワークショップの参加人数やご要望に応じて、本公演での発表場面について、いくつかのパターンをお示ししたいと考えておりますので改めてご相談させてください。良い公演になりますよう、何卒ご協力のほどお願いいたします。
3		



会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。  
※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

## 設置舞台



## 鑑賞位置

## 保護者鑑賞スペース

音響用卓

体育館にギャラリーがある場合は、ギャラリーに照明を仕込みます



※体育館の入口のうち、トラックの横付けが可能な箇所から機材を入れ込みます。

別添

なし

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

当協会は本事業の趣旨に賛同し、事業開始の昭和63年より参加してきた。日本舞踊は2023年、国の重要無形文化財に指定され、その豊かな芸術性と価値が広く認められたが、日本舞踊のような伝統芸能や日本文化は、学校教育の中でも中心的に学習される分野ではなく、また社会や生活様式の変化などにより、子供たちが鑑賞したり体験する機会が極めて少ないのが現状である。日本人が日本という風土の中で生み出し、長年にわたって受け継ぎ発展させてきた日本舞踊には、日本人固有の美やユーモア、心の機微が舞踊という表現で凝縮されている。これらの魅力を有し、長い歴史をかけて継承しながらも、今もなお進化を続けている日本舞踊を体験することは、次代を担う子供たちが国際人として、物事に柔軟に関わる力や、問題解決能力やコミュニケーション能力等を高めることにも繋がる。子供たちには日本舞踊に親しみ、日本の多様な文化芸術や豊かな生き方を体現する実演家と触れることで、自身の感性や文化芸術への関心を大切に育んでいってもらいたい。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

日本舞踊をはじめとする伝統芸能・舞台芸術の魅力を児童・生徒たちが体感し、学びと成長につながる本事業を重要な機会と位置付け、下記の工夫を行っている。

- ・協会内部委員会において、常に企画の内容や効果について検討を重ねている。
- ・ワークショップ、本公演ともに担当役員が帯同、子供たちの反応を視察するほか教職員からのフィードバックも受け、質を高める。
- ・ワークショップおよび本公演の冒頭では、担当教諭とも連携し、教諭から体験内容・ねらい・公演の見どころや楽しみ方を案内することで、団体と学校が一体となって子供たちを日本舞踊の世界へと誘う。
- ・教職員・保護者・地域の関係者にも鑑賞を促し、伝統芸能や舞台芸術への理解を深めてもらうことで学校や家庭でのコミュニケーションを活性化させる。
- ・ワークショップにおいては、各学校の理解を得て、地域で活動する協会員が指導を補助し、地元の日本舞踊家と児童・生徒の交流の機会を創出する。
- ・日本舞踊家が、日本舞踊に魅了され、職業として選択した経緯を語ることで、多様なキャリア形成を知るきっかけを与える。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

実施校とは、事前連絡から実施まで一貫して密なコミュニケーションをとるよう心がけている。初回の連絡時に希望の連絡方法や電話での補足説明を行う際のご希望の時間帯などを確認し、スムーズに進められるよう努めている。動画やカラーの資料を用意するなど、担当教諭がワークショップ・本公演の様子をイメージしやすいように配慮し、教職員にも児童・生徒と一緒に楽しんでもらえるよう工夫をしている。ワークショップ・本公演ともに基本の実施形態はあるが、最大限にこの機会を活用してもらえよう、各学校のニーズに柔軟に対応する。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

ワークショップでの成果発表を本公演で行うパートでは、子供たちに安心して楽しんでもらえるような環境づくりを目指し、担当教諭にも協力を仰ぎ、各学校のご希望や状況に応じて柔軟な対応を行う。ワークショップでの学習成果の発表のために、復習用の動画を提供するほか、「日本舞踊覚書」というイラストや写真をふんだんに使った教材をこの公演用に作成し全校に配布。本公演前の手引きとして、また鑑賞後の学びを、より深めてもらえるよう内容を工夫している。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

ワークショップの指導は現地の日本舞踊協会会員と協力して行っており、公演後も学校や地域の要望に応じて、日本舞踊の普及・振興に継続して取り組み、地域文化の発展に寄与していきたいと考えている。